

斎藤道三書状(伝衛門文書)

これは鷲見尚武氏の家に伝わる利政書状が斎藤道三の出したものである。この書状は道三が斎藤利政と名乗っていた時のことを記録している重要なものである。さらに天文十年前後の美濃と鷲見氏(郷)の関係も見えてくる。

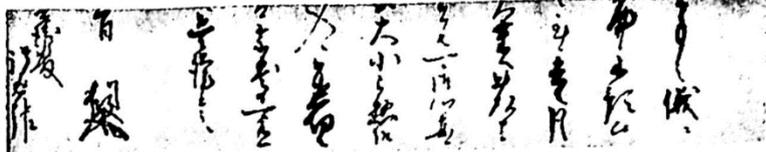
平成二十四年六月十三日の岐阜新聞に「美濃戦国史の謎を解く」という記事が載っている。この手紙に「国家無事」と書いてあるが、

現在使われている「国家」の語源は国と家、つまり美濃国と守護である土岐家を合わせた概念である。土岐家の内紛によって美濃国が乱れるのだから無事とは土岐家が無事であることを意味する。「まむし」の道三の別の面を垣間見ることができるといえる。

さらに、鷲見氏が贈った蓑は当時軍事的にも日用的にも大事なものであったと思われるが、さらに情報も知らせていたことも推測できる。この場合は飛騨と越前の情報も含まれていたであろう。



岐阜市歴史博物館学芸員・土山公仁



土岐頼芸と六角定頼の同盟が成立し、美濃は安定にむかった。実はこの頃の大桑(山県市)の状況がよくわからない。天文5(1536)年の時点で、大桑には頼芸を擁する稲葉山の長井氏(道三)に敵対する勢力があったことは以前紹介した長井玄佐の書状から明らかなので、頼芸の兄頼武の子頼純が大桑にいたと考えてよいだろう。

一般には天文12年大桑周

斎藤利政の時代

土岐氏と和睦成立

辺で起った大乱によって頼純が追放されたことみなされているが、ぼくは天文4(5年)の騒乱が終結し頼純は越前に去ったと考えている。近年、谷口研吾氏が新しい説を発表された(『飛騨三木一族 新人物往来社、2007』)。谷口氏による

と、天文9年ころ、土岐頼純が根拠にした根本の史料は天文9年8月、飛騨の三木新九郎が姉小路三城主は道三とかかわりの深

関連するところを考えた郡上の鷲見文書の中に次のような書状がある。「国家無事の儀について、詳しく提案いたさきありがとうございました。2月3日伊奈波神社を現在地に前の下旬にわたしも大桑に移動した時期を天文8年とす出頭しました」。署名は利政、入道する直前まで道三が使っていた実名だ。その利政も7月下旬に大桑に出頭したのである。この文書が天文9年と考えることに、石山本願寺日記「天文10年2月8日条で、道三は同(斎藤)左近大夫として登場し、長井新九郎の事也と注記がされているので、長井姓から斎藤姓へ改めたのは天文10年からさほど遅くない時期だったと思われるのである。(週一回掲載します)

(包装紙上書) 齋藤新九郎

鷲見籐兵衛尉殿御返報 利政

こつかぶじのぎに
国家無事之儀ニ (国家・美濃と土岐家)

つきて いきよく
付而、委曲(くわしく)示 預 候。(くわしく示してくれて)

ほんもうのいたりにせうろう
本望之至候。去々月

げじゆんおおが しゆつとうもうしせうろう
下旬大桑へ出頭申 候。

じぎにおいては おんころやすかるべくせうろう
於時宜者 可 御心安 候。

したがつてみのだいししうぎよいにかけられせうろう
随而蓑大小御意懸 候。

おそれいりせうろう
畏入 候。

ごこんせつ しだいにせうろう
御懇切の次第 候。

なおしゆうけい あるべく
尚宗慶(宗慶は人名)可有

えんぜつ きようきようきんげん
演説(知らせ)候。恐々謹言。

としまさ
九月三日 利政(花押) 天文七年〜天文九年推定

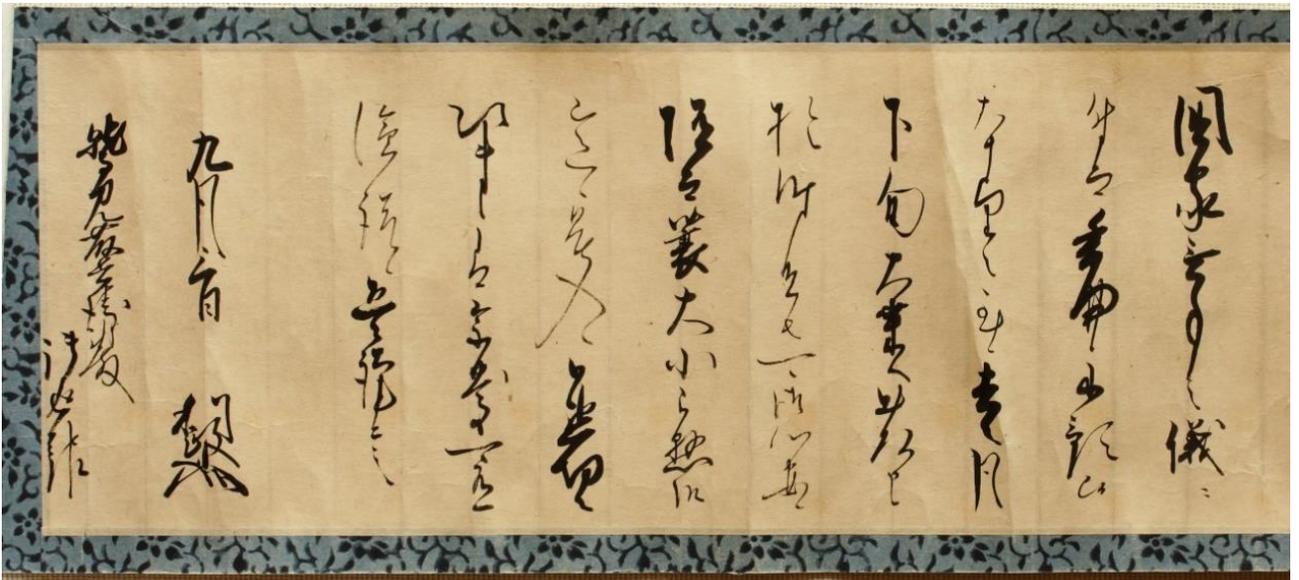
一五三八〜一五四〇

すみとうべえのじよう
鷲見籐兵衛尉殿 (誰か?)

利政は齋藤を継いだ時の道三の名



委曲||いきよく(くわしく、細かく)
於時宣||じぎにおいては||今の状態では
可御心安候||おんころやすかるべく(心配したことはな
い)
被懸御意||ぎよいにかけられ(親切に気をかけてもらい)
宗慶||そうけい(僧侶か?人の名?)
演説||えんぜつ(知らせ)



齋藤備前守
鷲見籐右兵衛(殿)

ねんとうのぎよけい
年頭之御慶

これにより もつしめさくのとら
従是 可申入之處 遮而

しめしあずかりそうろう
示 預 候、殊更 蓑被

ぎよにかけれそうろう
懸御意候。 過当之至候。

えんろ ともうし まいど ごんせつにそうろう
遠路 与申 毎度 御懇切候。

まことに しょしにつくしがたくそうろう
誠 難 盡 書 紙 候。 随 而

たちひとこし ほうちようかたなにまい
太刀一腰、包丁 刀二枚

これをしんじようそうろう
令 進 上 候。 万 端 期 後 信

しょうりやくそうろう
省 略 候。

としまき
二月九日 利政

すみとらうひようえじようどの
鷲見籐右兵衛尉殿

御返報



この文書は天文八年〜十四年(一五三九〜一五四五年) 推定
遮而||さえぎつて(それはさておき)
過當||かとう(分に過ぎた)
難盡書紙||しよしにつくしがたし(手紙に書き
尽せない)
一腰||ひとこし(大小二本)
後信||こうしん(後の手紙)

